



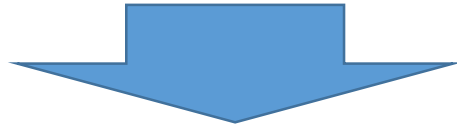
「ぎふ木育」における 自然保育へのアプローチ



H30・1・26
恵みの森づくり推進課 木育推進室

1 「ぎふ木育」誕生の背景

- ・ 私たちの暮らしを取り巻く環境の変化
- ・ 個人のライフスタイルの変化
- ・ 価値観の多様化、社会経済の進展、効率重視の社会の加速

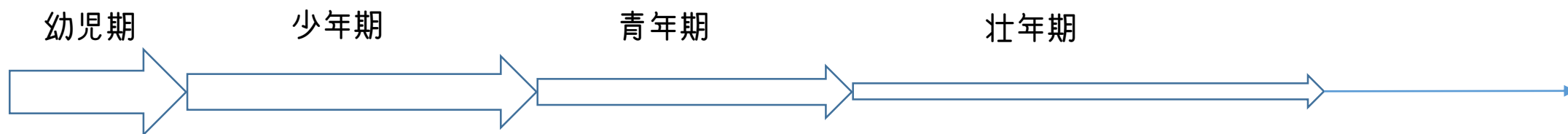


私たちの暮らしと森林など自然とのつながりは希薄になってきた。

2 ライフステージにおける森林（自然）との意識的関係性（希薄度）？

* 本質的な関係性は、暮らしや、複雑化した経済の仕組みの中で見えにくくなっているだけの部分があるため、ここでは主に「能動的、体験的」な関わりに注目

○ 一般的にはこうかな？



○ でも、実態はこうなんじゃない？

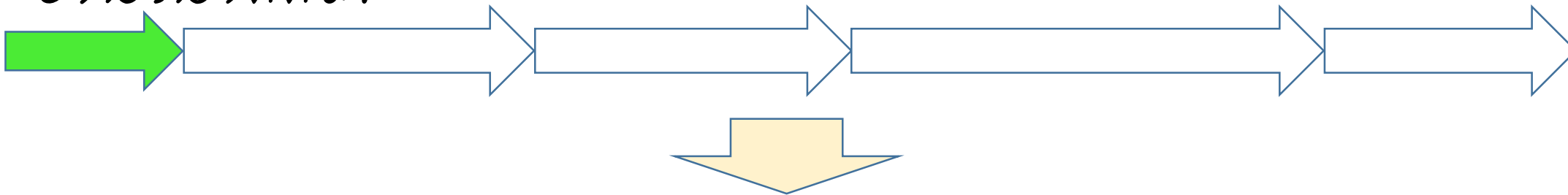


せっかく幼児期に豊かな自然体験をしても、その先は・・・

いい成績 → いい学校 → いい会社 → いい消費者（もちろんそれを否定はしませんが） ⇔ 豊かな人生 となっていないませんか？

子どもたちだけでなく、今、大人である あなた！ あなた自身はどうでしたか？ 今はどうですか？

○ こうだったらいいな！



だから「ぎふ木育」始めました！

定 義

森や木とふれあい、学び、ともに生きていく

ぎふ木育 = 「森と木からの学び」

岐阜県の豊かな自然を背景とした「森と木からの学び」であり、ふれあい・親しむことから、気づき、理解し、考える、という段階的な活動を通じて、清流の国ぎふの森林を守って活かす“人づくり”に向けた取り組み。特に幼児期における自然体験を重視。

幼児期の自然体験 = 人間形成の基礎を育む。

※それぞれのライフステージで、それぞれの関わりを持ち続けること、それが真に豊かな人生につながると考えます。

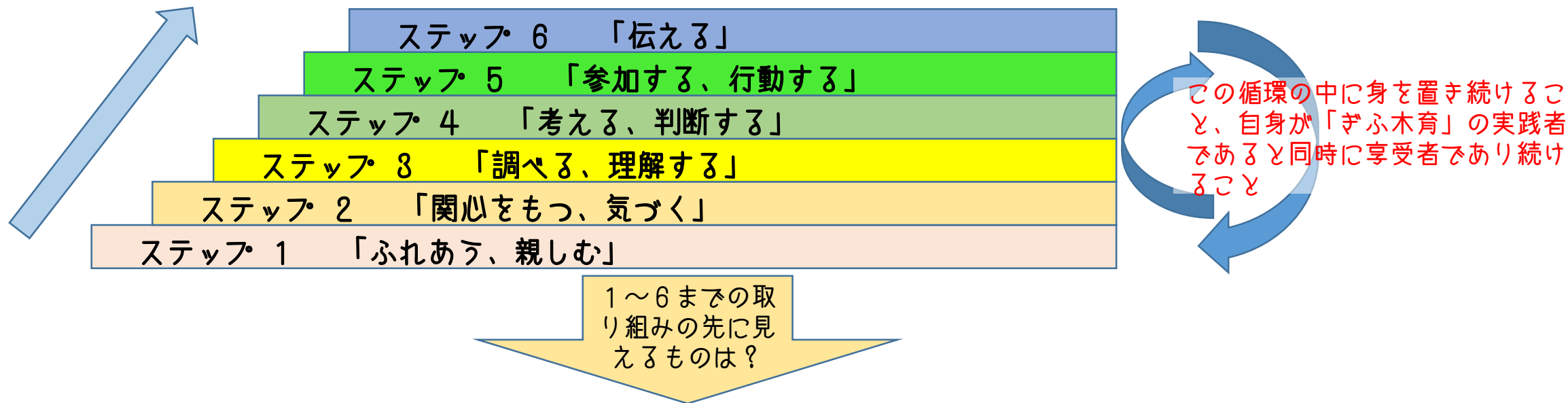
3 ゑふ木育の基本的な考え方～30年ビジョン～

1 長期的に育む ～生まれてから次の世代を育てるまで～

* 30年を目安として段階的、継続的に取り組む

2 「つながり」で育む ～ぎふ木育でつながる人づくり～

3 段階的に育む ～段階的に、世代を継ぎ循環すること～



忘れられつつある、薄れつつある「ふるさと」の再発見、再（創）生？
「ぎふ木育」＝ふるさと教育を進めるための手法

ぎふで生まれ、育った子供たちを、ぎふが大好きな子供たちにしたい。たとえ将来ぎふを離れることがあっても、懐かしさでいっぱい場所、いつの日にか帰りたいと思えるようなふるさとを作ってあげたい。また成人しても、年老いても、いつも心のどこかに豊かな自然、森の息遣いを感じ、その森が生み出す清流が心の奥の、どこか陽だまりのような場所で静かに流れているような、精神的に豊かな人生を送られる場所であってほしい・・・。

4 「森のようちえん」も「ぎふ木育」

森のようちえん

森を想う人、森が必要な人には、
すべて、おおらかに支援したい。

重要なことはどこに注目するか？ 岐阜県林政部では、**森に注目**しているから、「ぎふ木育」として、推進し、支援しています。



大切なことは価値観と手法としての**多様性への許容力**



いろいろな取り組みがあって
もいいんじゃない？
み～んな 「ぎふ木育」

自主保育型、既存園自然体験型、イベント（親子参加）型、
ハイブリッド型、プレーパーク等々

5 岐阜県における「森のようちえん」の活動支援

キッカケは、ぎふ森林づくりサポートセンターのブログ（H25～）

ぎふ木育大交流会～森の子育ち・親育ちフェス～を開催（H27. 9）



参加者申込者

1日目

438名(うち、子ども191名)

2日目

305人(うち、子ども138名)

参加者申込者の居住地別人数

岐阜内

岐阜市	56	美濃市	6	北方町	2
美濃加茂市	55	恵那市	4	七宗町	2
多治見市	53	大野町	4	御嵩町	2
土岐市	21	川辺町	3	笠松町	1
可児市	16	神戸町	3	下呂市	1
関市	16	白川村	3	白川町	1
各務原市	15	富加町	3		
郡上市	14	中津川市	3		
大垣市	12	羽島市	3		
高山市	12	飛騨市	3		
不明	10	瑞浪市	3		
八百津市	7	本巣市	3		
瑞穂市	6	揖斐川町	2		

愛知県

豊田市	62
名古屋市	8
犬山市	6
みよし市	6
扶桑町	5
豊橋市	4
一宮市	2
春日井市	2
瀬戸市	1
いなべ市	3
津市	1

長野県

飯田市	3
長野市	1
葛城市	5
榑原市	2
河合町	1
桜井市	1
生駒市	1
下市町	1
奈良市	1

その他県外

静岡県浜松市	5
鳥取県鳥取市	5
滋賀県高島市	4
京都府京都市	4
宮崎県都城市	3
東京都足立区	1
千葉県市川市	1

ぎふ木育大交流会アンケート結果

Q: 「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用して行っている「ぎふ木育」の取り組みのうち重要だと思うものはどれですか？（複数回答あり）

①木育教材や木製品の購入費の補助...7

②幼稚園・保育園・小中学校等での出前授業...23

③木育指導者育成のための研修会...27

④木育体験イベント...26

⑤常設の「木育ひろば」の設置...27

⑥木育実践者の交流会...23

Q: 上記以外で必要だと思うことは？（抜粋）

- 「自然の家」等の宿泊研修施設の精神を引き継いだ民間宿泊施設への援助
- 森のようちえん、森の小中学校、プレーパークが県立に
- 森のようちえんの認証制度。プレーパークの大普及（小学校区に1つはほしい）
- 森のようちえんやプレーパークへの補助
- 森のようちえんも幼児教育に選択肢の1つにすること
- 森のようちえんの認知を高めるための広報活動
- 森のようちえんや自由な小学校に通うための金銭的な補助がほしい。移住促進にもつながると思います
- 火や水が使えるように森を開放すること
- 森でのびのび遊べる場のスタッフの育成、フィールドの確保
- 森林公園の整備（崩れてしまった橋を直してほしい、使われていない小さな小屋を使わせてほしい）
- 年齢決めず、たごっこパークのような場。子どもが自分の足で行け、常設である場
- 子どもが育つうえで何が大切なのか、行政、市民、議員ともに継続的に学ぶ場が必要



ぎふ森のようちえんネットワーク設立

ぎふ木育交流会の開催

森のようちえん・プレーパーク実践者を対象に、森林空間を活用し、活動するうえで必要な知識や技術の習得、実践者同士の交流を目的に開催。

平成28年度

第1回ぎふ木育交流会（5月21日-22日）

- ・子どもを対象とした野外自然体験における「身体の安全」
- ・参加者：77名（15団体42名＋子ども35名）



第2回ぎふ木育交流会（12月4日）

- ・実践者と自治体職員による学びと交流
- ・参加者：127名
 - ・県内実践者13団体37名＋子ども22名
 - ・自治体職員24団体38名
 - ・その他11団体25名＋子ども5名



第3回ぎふ木育交流会（3月4日-5日）

- ・子どもを対象とした野外自然体験における「心の安全」
- ・参加者：71名（17団体40名＋子ども31名）

平成29年度

地方創生に活かす「森のようちえん・自然保育」勉強会（7月7日：午前）

諸外国や全国の先進事例に学ぶ、森林・里山を活用した

新たな教育・子育て支援・移住交流の促進

参加者：44名（県＋16市町村）

・教育委員会2名／子育て支援12名／政策企画12名

林政3名／議員5名／実践者10名

ぎふ木育交流会（7月7日：午後）

森のようちえんの視点から読み解く保育指針改定及び幼稚園教育要領改訂

及び森のようちえん・自然保育の社会化に向けた学びと交流

参加者：56名（17団体39名＋子ども17名）



森のようちえん全国交流フォーラム開催誘致を表明

岐阜県のキーパーソン：萩原・ナバ・裕作氏





萩原・ナバ・裕作氏のプロフィール

(専門分野)

自由な遊び&自由な学び 環境教育 インタープリテーション

(専門分野に対する思い)

もしも日本の森、日本の社会を真剣に変えていきたいと思っているのなら、まずは子どもたちから、いや、子ども達をとりまく環境から変えていくことが何よりも大切であり、確実であると信じています。これからもそのための活動であれば、あらゆることにチャレンジし続けていこうと思います。

(肩書き)

◆野外自主保育「森のだんごむし」 言いだしっぺ

◆「みのプレーパーク」 言いだしっぺ

◆「自由な学びを考える会（あたらしいがっこうをつくろう会）」 言いだしっぺ

◆日本エコツーリズムセンター 世話人

野外自主保育「森のだんごむし」の活動

森林空間を活用したモデルをつくりたい！森の中で子育てすれば、子どもも、保護者も、地域も、林業も、みんながHAPPYになるのでは？

そんな思いから、地域のお母さんたちと一緒に2008年に森林文化アカデミーの演習林とその周辺を拠点に設立したのが、県内初の森のようちえん「野外自主保育 森のだんごむし」



春

夏



冬

秋



森林文化アカデミー × 地域

【揖斐川町との連携】

平成27年に開催した「第39回全国育樹祭」を契機に、「森のようちえん」への取り組みがスタート。
 平成28年度から、谷汲緑地公園を拠点とした「森のようちえん」を展開するため、森林文化アカデミーが助言しながら、「子どもと森のじかん」を開催。6月の体験イベントには県内外から900名を超える親子が参加。
 その後、週1回の「森のおさんぽ会」を開催。
 平成29年度から西濃地区第1号の「森のようちえん」が誕生！



7 今後の展望

【森林総合教育センター構想】

～すべての人と森をつなぎ 森と共に暮らす楽しさと 森林文化を伝えていく～

ドイツの「Haus Des Waldes」同様、子ども向けプログラムを中心に展開予定。子どもが変われば社会も変わる。



8 「清流の国ぎふ 森林・環境税」を活用した「自然保育」の推進

ぎふ木育教室



対象：保育園、幼稚園、小学校、子育て支援センター、公民館など

目的：森や木とふれあい、親しむ中で、人と自然、人と人とのつながりを自ら考えることのできる豊かな心を育む。

内容：講師として、ぎふ木育推進を派遣（派遣費用は県負担）

実績：H27：34施設、H28：36施設、H29：50施設



水の積み木づくり

ぎふの木育教材導入支援事業



対象：保育・教育関連施設

目的：身近な木にふれあい、親しみ、温もりを感じることによって木と森とのつながりを考えることのできる豊かな心を育む。

内容：県産材を使ったおもちゃ、キットなどの購入経費の1/2（上限10万円）を補助。



木のおもちゃ

清流の国ぎふ地域活動支援事業

対象：NPO、任意団体、自治会など

内容：各種団体等が自ら企画・立案・実行する創意工夫ある環境保全に関する地域活動を支援。

50万円までは10/10補助。それ以上は1/2補助。

【下限：100千円／上限1,250千円】

実績：（H28）森のわらべ多治見園：

「休日版 森わら広場」による森のようちえん普及事業

（H29）ぎなんプレーパーク

ぎなんで自然を体験しよう～プレーパーク～



清流の国ぎふ市町村提案事業

対象：県内市町村

内容：市町村が必要と考える環境保全活動を支援。

補助金額10/10以内（上限1,000千円以内／事業）

公共施設の県産材利用促進は1/2以内（上限3,000千円／事業）

実績：（H28）揖斐川町

全国育樹祭跡地を活用した体験型「森のようちえん」事業
美濃市

保育園・幼稚園での木育ワークショップ、プレーパーク



ぎふ木育指導者養成研修

- ・ 保育園、幼稚園などの先生を対象とした研修（年2回）



安全管理研修・里山づくり後継者養成講座

- ・ 幼児が自然環境の中で、安全に安心して活動できるための研修や里山の利活用を考える講座





子供も大人も、みんな、もっと森へ行きましょう！
森はきっと今もあなたを待っていてくれます。